



# - koaa press -

kagoshima organic agriculture association

JAN, 2026  
vol. 104

## 新米理事 就任ごあいさつ

理事 瀬戸口 晴子

あけましておめでとうございます

謹んで新年のお慶びを申し上げます ☆彡

今年度 第26回総会（2025年5月31日）から新たに理事の末席に加わりました。前号の五嶋大真理事に続いて、自己紹介をさせていただくこととなりました。微力ではございますが、素晴らしい自然環境に恵まれた鹿児島県での有機農業の発展と平和で心豊かな暮らしのためにお役に立てれば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

### < オーガニックフェスタ実行委員として >

私と有機農業協会との出会いは、「**オーガニックフェスタ2014**」の実行委員会に参加させていただいたことがきっかけです。それまでは1来場者としてフェスタを楽しんでおりましたが、大和田ご夫妻と御縁あってお手伝いをさせていただくこととなりました。

もともと食物や食文化・食育に関心があり、千葉しのぶ先生が開講された「**かごしま郷土料理マイスター講座**」2期生として学びを深めていたこともあり、立川委員と一緒に「**こんにゃくワークショップ**」を企画いたしました。私自身、植物の地下茎から物性やテクスチャーの全く異なるこんにゃくが出来あがる不思議に魅了されていたので、市中ではなかなか見る機会のない「**蒟蒻芋**」（結構グロテスク！）を取り寄せ、意外と知られていない芋からの製造方法や作物としての特徴などイラストや写真で紙芝居を作って参加者へプレゼンしました。続いて実際に「**有機こんにゃく粉**」（MOA商品）を用いて溶いて捏ねて丸めて茹でる体験講座は、物珍しさも



あって親子連れはじめ老若男女にご好評いただき盛り上がりしました。やりがいを感じて最も興奮していたのは私だったと思います。

出展者様との交流、ボランティアスタッフ大活躍の舞台裏なども貴重な経験となりました。県内各地で数々の素晴らしいイベントが開催されていますが、**オーガニックフェスタの基本コンセプトと主催者・スタッフの情熱**には特に深く感銘を受け共感いたしました。



### < オーガニック映画祭との出遣い >

我が家の近所でもある鹿児島三越跡に2010年にオープンした「マルヤガーデンズ」7Fに設けられた39席のミニシアター「**ガーデンズシネマ**」での協会主催「**国際オーガニック映画祭in Kagoshima**」の素晴らしいラインナップやトークイベント企画にも魅せられました。

有機農業・食物・生命・環境問題等に関する国内外のドキュメンタリー映画は、商業施設のシネコンやテレビ番組では見ることの出来ない最新情報の宝庫で、どれも見逃したくなくて有給休暇をとってコンプリートしたり、暗闇の中で初めて知る情報を手探りでメモしまくったり、お隣で観ていた方と感想を話し合ったりトークに参加したりと楽しみました。



## contents

P1-P2  
瀬戸口理事のご挨拶

P3  
追悼 八幡 正則さん

P4-P5  
イベント開催報告

P6-7  
連載コラム

P8-12  
認証業務部からのお知らせ





一方、フト周りを見回すと、映画の内容によっては集客に苦労されていたりヤング層の参加が極端に少ない点など課題も見えてきて「**私がお手伝いできることがあるのではないかと、もっと広く盛り上げたい！**」と思い立ち、気がつけば1ファン客の立場から（フェスタを卒業して、映画祭の）ボランティア実行委員となりました。実行委員会は 故・大和田明江さんを中心に様々な背景や情熱を持つ老若男女有志が夜間、協会に集まっては上映作品の試写選定やイベント企画等を協議し、開催中は受付もぎりから呼び込み、押し映画の前説をしたりオーガニックマルシェで客になったり逆に店番をしたり。観客時代以上に楽しませていただき、今年度(先月)で第16回を迎えました。



また、一昨年は従来の映画祭形式ではなく、「リバーバンク森の学校」（川辺・旧長谷小学校）を会場に「**オーガニックな森じかん ～静かな森で感じる循環～**」という野外イベントを開催することになり、SDGsワークショップと題して、趣味の一つである「**本場大島紬アップサイクル講座**」（古裂を活用したヘアゴムやコースターなど実用雑貨製作体験）を実施させていただきました。

鹿児島県の特産品である「本場大島紬」は、イランのペルシャ絨毯・フランスのゴブラン織と並ぶ「**世界三大織物**」で、他産地の紬とは全く異なる緻密で複雑な製造工程による貴重な伝統工芸品ですが、若い来場者は見たことも触ったこともなく知らない方が予想以上に多くて焦りました。子ども達や家族連れなど大島紬を知らなかった皆様方へ「**地元鹿児島県の伝統工芸品としての大島紬**」の素晴らしさとリメイクの楽しさをお伝えできたことは、私自身にとっても嬉しい体験となりました。



## < 食・食物・食文化 そして 鹿児島への思い >

私は農家出身ではなく有機農業の経験も無く知識も少なくお恥ずかしい限りなのですが、高校3年時に「大学で何を専攻したいか、美術？文学？食物？」と悩んだ挙げ句、人間が生きていくのに**一番大切なものは「食！」**と思い定めて、お茶の水女子大学の食物学科に進学しました。

本当は食文化を研究したかったのですが、想定外にもバリバリ理系(文系泣かせ)の学科で、栄養化学研究室では白衣を着てガスクロマトグラフィー・電気泳動・分光光度計など駆使して（私の卒論テーマは畜肉・魚肉の脱水熟成と酵素活性の解明）実験研究や論文輪読などしておりました。

そのまま院やメーカーの研究所へ進むのが王道なのですが、憧れの東京に住んでみたお蔭で、逆に鹿児島の素晴らしさやポテンシャルの高さ、食の豊かさを実感することが出来ました。「首都での最先端都市生活や文化芸術環境はとても魅力的だけれど、**やはり暮らすとしたら生まれ育った鹿児島で桜島に見守られながら生きたい！**」とUターン就職を希望し、昨春の定年退職まで38年間、MBC南日本放送で主にマーケティング・販促・広報・イベント事業などを担当して参りました。

現在は卒寿両親のサポートをしながら、自分自身の趣味興味と得意分野を活かして、知財事務所で特許・実用新案・商標に関わる仕事、中小企業診断士として中小企業支援・経営改善計画策定・補助金等の仕事、ファイナンシャルプランナー・金融経済教育推進機構の講師など何かしら社会貢献につながる仕事とボランティア活動・ART作品制作・アップサイクルをマイペースで行っております。

**機会がありましたら会員の皆様方ともお話したく、どうぞお気軽にお声掛けくださいませ。**

## 追悼 八幡正則さん（協会元副理事長）

鹿児島有機農業協会検査員・判定員  
岩元 泉

八幡さんが一昨年1月に「水炊きを食べたい」と博多に来られた。その日は冷たい雨が降っていた。東長寺[1]の山門で待ち合わせた。私と妻とで水炊き発祥の店という「水月」に案内した。大いに食べ、日本酒を飲み、いろいろな話を語って、新幹線で帰られた。驚いたのはその後、夜の11時頃だったか、電話があって「今帰りつきました」と律儀に報告があった。相当酔っていたのに、と感嘆した事を覚えている。

八幡さんは1999年に鹿児島県有機農業協会がNPO法人として設立されたときの副理事長で、その経緯は「みどりの風は南から（協会25周年記念誌）」にご本人が書いている通りである。八幡さんは農協に長く勤め、退職後も「食」と「文化」に関わる仕事をされてきたが、有機農業にも一方ならぬ思い入れを持っておられたと思う。

日本有機農業研究会の創設者の一人である一楽照雄さんとは、一楽さんが全中常務時代からの知り合いだったそうである。一楽さんが来鹿された際に、鹿児島で有機農業の中心人物の一人だった平瀬實武さん（元鹿児島市長）と引き合わせたという逸話がある（八幡正則著『人は他人(ひと)仲間(た)は田中』所収）。実は平瀬さんと一楽さんは東京帝国大学農業経済の先輩後輩の間柄で、その後も有機農業の大会での交流があったという。

設立まもないNPO法人鹿児島県有機農業協会は、法人としてはいわば素人の集まりで、組織運営や経理などに疎い面々ばかりだったので、農協人の八幡さんの叱咤激励によって組織の体裁が整っていったと思う。鴨池公民館や県民交流センターで開催された理事会などでは、当時の事務局は種々の不備を指摘されて鍛えられた。

八幡さんは、勤めているときに大病をされて、それを克服された経験から、いろいろな健康法を実施されていた。毎朝の散歩、塩水浴、甘酒、ヨーグルト、ゲルマニウム、などなど、いろいろ私にも勧められたが、長続きしなかった。でも多分本人は、今回入院するまで続けておられた。奥様が亡くなられてから、またその前から自炊し、人一倍健康には気を遣っておられたと思う。

八幡さんは、恩師三浦虎六先生の教えを引き継ぎ、二宮尊徳の報徳精神に心酔し、その真髓を説くためにメルマガ『怠れば廃る』塾を開設し、2025年5月まで305回にわたって配信された。好奇心旺盛、記憶力抜群のスーパー大先輩であった。「尊厳死運動」にも取り組まれていたが、まさしく尊厳に値する人生であった。

協会が今日あるのも八幡さんの薫陶のおかげである。ご冥福をお祈りしたい。

[1] 空海が日本で最初に創建したお寺で、日本最大級の木造仏像があることで有名。



# オーガニックフェスタ かごしま2025

## 開催報告



今年で18回目を迎えた「オーガニックフェスタかごしま」。

事務局が交代し、ボランティアスタッフの数も例年より少ないなかでのスタートでしたが、事務局・実行委員・ボランティアが互いに支え合い、無事に開催当日を迎えることができました。

当日はやさしい秋の陽気に包まれ、こだわりの商品を求めてたくさんの方がご来場くださり、出店者数は過去最多の160店舗となりました。

オーガニックを通して多くの方々とつながり、楽しく、あたたかな時間を過ごすことができました。

ご出店くださった皆さま、ご来場くださった皆さま、ご協賛・ご支援くださった皆さま、そして、当日を支えてくれたボランティアスタッフひとりひとりの優しさと力があってこそ、今年のオーガニックフェスタも素敵なものになりました。心から、感謝申し上げます。

また来年も、みなさまと笑顔でお会いできることを楽しみにしています！



Instagramでもフェスタの様子を紹介しています！ぜひ、ご覧ください♪

お手伝いいただきました検査員、判定員、理事の皆さまありがとうございました。





# 第16回 国際オーガニック映画祭

International Organic Film Festival in Kagoshima 2025

映画祭実行委員長 鶴田 修市

12月6日,7日,8日に鹿児島市のマルヤガーデンズ7Fにあるガーデンズシネマにて『第16回 国際オーガニック映画祭』が開催されました。コロナ禍などを経て、3年ぶりの開催。今年は、【食べることは生きること〜アリス・ウォータースのおいしい革命〜】【2040 地球再生のビジョン】【せんせいはほほーっと宙に舞った宮沢賢治の教え子たち】【レアメタルと気候危機 『脱炭素』の裏で】【人生フルーツ】【ダーク・ウォータース 巨大企業が恐れた男】の6作品を上映しました。3年ぶりの開催にあたり、実行委員の中で映画を選定するキーワード（有機農業、食、暮らし、環境、人権、平和）を決めました。そして映画祭を通して観た人がよりオーガニックや地球環境に関心を持ち、自分たちの生活や人生を深く考えるようになれば、と願いを込め再スタートを切りました。

今回上映した作品の一部を感想を交えて少し紹介します。



## せんせいはほほーっと宙に舞った

童話「やまなし」「銀河鉄道の夜」などで知られる宮沢賢治。実は彼、短い期間でしたが農業高校の先生をしていた時代がありました。退職後も農家の無料相談所を開設し多くの農家が相談に来ていたそうです。そんな宮沢賢治は教え子たちの目にどう映ったのか。映画のタイトルにあるように「ほほー」と舞っていた、と彼らは言います。どうやら少しお茶目な先生だったようです。



## レアメタルと気候危機

上映6作品のうち、一番考えさせられる映画でした。私たちの暮らしにはたくさんのレアメタルというものが使われています。中でも蓄電池に使われているニッケルの採掘鉱山について描いているのがこの作品。インドネシアとフィリピンの鉱山では、周辺の自然が破壊され、地域住民や農民の仕事や生活が奪われながら採掘されています。地球温暖化対策のための脱炭素という大義のもとに行われているのかもしれませんが、「誰も取り残さない」気候危機対策とは程遠い現実がそこにあります。また、この鉱山周辺での問題はかつて日本でもありました。そう、水俣病です。私たちの豊かな暮らしの裏にこのような犠牲があっただけではないとは思えません。「公正」「配慮」の原則（IFOAMの基本原則）にも反しています。この映画を観た後、ハッピーな気持ちにはなりませんが、このような映画も必要だと思い、上映をしました。



## 食べることは生きること

オーガニックの母/おいしい革命家と呼ばれるアリス・ウォータース。アメリカのオーガニックレストランでの取材と日本を訪れたときのことをまとめたドキュメンタリー映画。オーガニック"界限"では今一番ホットな映画と言っても過言ではないかもしれません。この映画はぜひこのこあぶれすを読んでいるみなさんにも一度と言わず二度三度観ていただきたい。かくゆう私は10回以上観ました。そんな私が映画祭でやってみたかったこと、それはファーマーズミーティング。これは映画の中にも出てくるもので、簡単に言えば生産者の話を聞いてみましょう、というごくありふれたもの。今回はかねてから親交があった落合ぶとう農園（阿久根市）の落合さんご夫婦と、座右農園（南さつま市）の中村晋作さん、福島隆盛さんに来ていただきました。農園のことや農業をするまでのこと、映画のこと、これからのことを自由に話していただきこちらの回も時間が足りなかった！...そのくらい話が盛り上がってしまいました。

映画祭と同時開催で、マルヤガーデンズの屋上庭園では【organic sunday market】が、スーパーハルタの店先では【のきさきオーガニックマーケット】が開催されました。どちらもオーガニックなものや、環境や身体に良いものを集めたマーケット。映画を観に来てくださったみなさんもととても楽しんでお買い物していました。

12月8日の有機農業の日に合わせて開催した映画祭。今年の動員数はのべ250人以上。決して大きい数字ではありませんが、映画を観てくださったみなさんには何か伝わったはず。しっかりと、そして強い何かが一。

これからも映画祭は続きます。映画祭を立ち上げた大和田明江さんやガーデンズシネマの黒岩美智子支配人の熱い思いはそのままに、そこに私たちの思いも乗せ、オーガニックが溢れ、生きとし生けるすべてのものが平和に暮らせる世界になることを願って。





## 「大豆は重要だよ」というお話し

## 身近な大豆食品

朝ごはんには、味噌汁、醤油をかけた豆腐、納豆がつきものです。味噌、醤油、豆腐、納豆、これらは大豆製品です。これ以外にも枝豆、きな粉、油揚げ、がんもどき、湯葉、煮豆など多岐にわたる大豆由来食品があります。日本人には欠かせない大豆製品ですが、世界的に見ると大豆を直接食品にするのはアジアの国々のみです。



NPO法人  
鹿児島県有機農業協会 顧問 岩元 泉

では、世界的には大豆はどのように使われているでしょう。米国農務省公表データによると、総生産量は約4億2400万トン(2024/25年度)でした。FAO（国連食糧農業機関）によると供給量のうち、加工（すなわち搾油）が83.4%で、ついで飼料用が9.1%、食料用は3.7%です。つまり大半は大豆油の原料として使われています。大豆から重量で16～22%の大豆油が搾れ、搾った残りは大豆粕となり家畜の餌や醤油の原料になります。

## 日本の大豆需要

日本での大豆の需要量は356.2万トン（2023年）ですが、そのうち238.8万トン(67%)は大豆油用です。食品用は103.0万トンですが、うち78.2万トン（76%）が輸入されています。

国内の大豆需要は大豆油が最大ですが、これはほとんど輸入でまかなわれています。食品用で最も多いのは豆腐で45.2万トン使われています（国産比率29%）。次いで醤油17.0万トン（国産比率3%）、納豆16.6万トン（国産比率25%）、味噌12.3万トン(国産比率14%)となっています。身近な大豆食品でも輸入に頼っていることが分かります。

## 大豆の貿易

世界最大の大豆生産国はブラジルで、1億5211万トン(約40%)を占めています。ついで米国で1億1300万トン(27.9%)、以下アルゼンチン2500万トン、中国1900万トン、パラグアイ1000万トンと続きます。したがって大豆の輸出も上位の国々が占めています。ブラジルは輸出量が1億トンを超えていて、生産量の67%を輸出しています。

輸入面では中国が近年1億トンを超える輸入をしていて、しかも輸入先が米国からブラジルにシフトしているのが特徴です。その点では、中国はトランプ関税に対抗して米国からの大豆輸入をストップしていましたが、2025年10月の米中首脳会談で大豆出荷再開で合意しました。しかし大口購入の兆しは見られないとロイターが伝えています（2025.11.20）。中国の大豆輸入増大は家畜飼料需要によるもので、肉類の消費が増え、豚の飼育が増加していることが背景にあります。





現在、日本は317万トン的大豆を輸入しています（2024年）。そのうち208万トン(66%)を米国から輸入しています。次いで74万トン(23%)をブラジルから輸入しています。その大半は遺伝子組み換え大豆です（米国産の約96%、ブラジル産の約95%は遺伝子組み換え大豆）。日本国内での遺伝子組み換え作物の栽培は許されていないので、国産大豆は遺伝子組み換えではありません。中国の大量の大豆輸入を受けて、しばしば日本が買い負けるという事態も起きています。

## 大豆の重要な位置

大豆はマメ科植物で、根粒菌と共生しており、大気中の窒素を固定して大豆に供給するだけでなく、大豆を栽培することで土壌への窒素供給にも寄与しています。大豆はかつて特に畑作では輪作上、重要な作物でした。私の恩師の一人である故山田龍雄元下関市立大学学長（九大名誉教授）は「畑一年三作の農法史的考察」の中で、その中心に位置する大豆の重要性、将来性を説いています。

1954年には43万haあった作付面積が、2024年には15万ha余で、しかも畑よりは水田での栽培が多くなっています。これは1960年代以降の貿易自由化の中で、麦、大豆をはじめとする畑作物が犠牲となり、作付面積が激減した結果ですが、水田減反政策の中で転作作物として大豆が位置付けられたことが水田での作付面積が大きいことの背景にあります。

## 国産大豆の危機

このように食品として食生活上も、農業技術上も重要な大豆ですが、国内生産が低迷しています。特に米高騰を受けて、これまで大豆を生産していた水田で主食用米を作付けする動きがみられ、農水省では大豆は1万ha減少する見込みを立てているそうです(NHKニュース2025.12.4)。

国産大豆の有機栽培も少なく、有機JASの格付数量では1,227トンで総生産量の0.47%を占めるに過ぎません(2023年度)。しかも有機JAS格付数量のうち、外国で格付けされた大豆は56,522トンもあり、うち12,626トンが日本向け出荷量となっています。国内産有機大豆の10倍の外国産有機大豆が輸入されているということになります。

国産大豆には豆腐業界など国内業界から期待も大きい反面、大豆栽培には収量が低い、湿害や病害虫に弱いなどの技術的側面、補助金なしでは生産が成り立たないなどの経営的側面、食用以外では価格面で外国産に太刀打ちできないなどの問題があります。

食用のみならず、大豆油、大豆粕を含めた食料安全保障上も重要な大豆の今後に注目していきたいと思います。







## 認証業務部より

## 当協会評価済み資材リストが増えました

各方面から好評をいただいている「当協会評価済み資材リスト」を更新しました。更新の概要は以下のとおりです。

- ・新たに申請された資材、開示がもれていた資材を追加しました。
- ・原材料の一部が変更された資材を再度評価しました。
- ・資材名称と資材メーカーが変更されました。

更新後のリストは当協会のホームページに当協会の認証事業者及び会員のみなさま限定で開示しています。以下から確認してください。

<https://acrobat.adobe.com/id/urn:aaid:sc:AP:3646d023-83ff-4983-830c-66daade1b93a>



当協会評価済み  
資材リスト

「評価済みであるが資材メーカーさんのご希望により開示しない資材リスト」の更新はありません。

パソコンを使用しない方もいらっしゃいますので、当協会評価済み資材リストの開示版と非公開版の両方を同封いたします。別紙をご覧ください。

※ファイルを開くにはパスワードが必要です。パスワードは従前のとおりです。ご不明な場合は事務局へ連絡ください。

## 業務規程別表2を改訂しました

当協会は新規認証の調査、毎年の確認調査いずれも手数料を先にご入金いただいています。入金はいただいたが書類が整わず現地調査に至らないまま認証されないというケースが生じたため、返金に関する項目を追加しました。



業務規程別表

詳細は当協会のホームページに公表しています。以下から確認してください。

<https://koa.or.jp/wp-content/uploads/2025/11/gyoumukiteibeppyou2.pdf>

## Exment(エクスメント)使用に関するお願いです

当協会は25周年を迎えました。おかげさまで認証件数も増えていきます。それに伴い関係書類も増大し、紙ファイルの保存場所が確保できなくなってきました。これを機にペーパレス化に取り組んでいます。その一環としてExment(エクスメント)というシステムを導入することになりました。

認証事業者のみなさまには、これまで主にメールに添付してデータを送信いただいていたのですが、今後はExment(エクスメント)を使用して送信いただきたいと思いますと考えております。

Exment(エクスメント)の詳細については別紙を参照してください。

Exment(エクスメント)の使い方について

- ・対面では2026年2月10日のフォローアップ講習会
- ・オンラインではその約3ヶ月後のフォローアップ講習会(日程詳細は未定)

において説明いたします。

これ以外に担当事務局員から電話やオンラインで説明させていただきます。

ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。





## 有機JAS講習会 フォローアップ講習会開催のお知らせ

有機農産物(きのこ、飼料含む。)、有機加工食品(酒類、飼料含む。)の有機JAS講習会・フォローアップ講習会を、下記の日程で開催いたします。

参加をご希望される方は申込用紙によりお申し込みください。

有機JAS  
講習会

2026

2.18

水



19

木

時間) 10:00~16:30

場所) かごしま環境未来館

フォロー  
アップ  
講習会

2026

2.10

火

時間) 13:00~

場所) かごしま環境未来館



フォローアップ講習会は、立山検査員と事務局:古市が担当いたします。  
お話する内容は...

・ Exmentの操作方法

・ 有機表示と格付の表示(有機JASマーク)

・ 同等性の仕組みを利用した輸出

・ お酒の表示

・ 連絡会議で紹介された不適合事項等

・ 事業所調査で指摘された不適合事項等

・ 農薬検出

これ以外にもみなさまからの質問もお受けしますし、ご意見も伺いたいと思っています。  
お忙しい時期ではありますが、ぜひご参加ください。

## 第29回九州・山口有機農業の祭典開催のお知らせ

2026

1月 31日



2月 1日



こんこんパーク(山口県山口市湯田温泉5丁目2番15号)

内容: オープニングトーク、基調講演、分科会、種苗交換会、マルシェ等



詳細は事務局までお尋ねください



# 同等性の仕組みを利用した輸出についてまとめました

2025年10月1日から米国、英国、オーストラリアニュージーランドとの同等合意が発効され、有機酒類の輸出入について、同等性の仕組みを利用することができるようになりました。

このことも踏まえ、現在の同等性の近況に係る資料が農林水産省から示されましたので共有いたします。

## 【同等性の近況について】

	農産物	農産物加工品 (酒類を除く)	酒類	畜産物及び 畜産物加工食品
米国	○	○	○	○
EU※1	○	○	○	○
カナダ	○	○	○	○
台湾	○	○	○	—
英国※1	○	○	○	—
スイス※2	○	○	△	○
オーストラリア※3	○	○	○	○
ニュージーランド※3	○	○	○	—
アルゼンチン※3	○	○	—	—

※1 原料原産地制限について、EUとの間で令和7年5月18日より、英国との間で令和7年10月1日より撤廃済み。

当面の間、EUに輸出する有機JAS製品について、令和7年5月16日以前に受け入れたEU認証を受けた原材料、英国に輸出する有機JAS製品について、令和7年10月1日以前に受け入れたEU認証または英国認証を受けた原材料の使用を可とする。

※2 日本からスイスに輸出する有機加工食品について、ワイン(ぶどう酒)を除く有機酒類は有機加工食品として有機同等性の仕組みを利用して輸出することができる。原材料は日本及び日本の同等国産のものに限る。

スイスから日本に輸入する有機加工食品については同等交渉が終了していないため同等性の仕組みを利用して有機表示することはできない。

※3 オーストラリア、ニュージーランド、アルゼンチンについて、日本側が相手国の有機制度を同等と承認しているのみ。

オーストラリア国内、ニュージーランド国内では、有機JAS認証により「有機」表示が可能。

# 有機酒類とお酒の表示

2025年10月1日から有機酒類が指定農林物資となり、有機酒類においても出荷時に有機JASマークを付すことが義務化されました。

有機酒類についてまとめます。





### 【JASに基づく有機酒類の表示方法】

酒類の表示については、酒類業組合法において表示方法が定められています。有機酒類においてもこの法律を遵守した上で有機JASに基づく表示を行うことになります。

#### 【記載例】



#### 【品目】

記載すべき品目名が決まっており、そこに「有機●●」と記載することができません。よって品目の欄とは別に別途「有機」の名称を記載する必要があります。

上記の例では

品目の欄に「清酒」と記載し、別途名称を「有機純米吟醸酒」と記載する。

#### 【原材料】

酒類には原材料の記載義務がない品目があり、これらの酒類については有機酒類においても原材料の記載義務がありません。

清酒のように個別に品質表示基準が定められ、そこで原材料記載が求められている場合は原材料名に「有機●●」と記載します。

上記の例では

原材料名の欄に「有機米、有機米こうじ」と記載する。

#### 【焼酎の場合の記載例】



### 【同等性の仕組みを利用した輸出】

米国、EU、カナダ、台湾、英国については同等合意に基づく輸出が可能です。

スイスは先に述べたとおり、ワイン(ぶどう酒)以外の酒類は同等合意に基づく輸出が可能です。ただし原材料は日本及び日本の同等国産のものに限ります。

米国に同等合意に基づく輸出を行う場合、日本国内で最終加工及び最終包装されたものに限ります。またワインを含めすべての有機酒類において亜硫酸(二酸化硫黄及びピロ亜硫酸カリウム等)は使用不可です。ワインについてはさらに詳細な条件があります。ワインの製造、輸出がある場合は個別にご連絡ください。

同等性の仕組みを利用して輸出する場合は、輸出する都度、登録認証機関が発行する輸出証明書が必要です。また、米国、EU、カナダへ相手国の認証マークを国内(日本)で付して輸出する場合は、外国格付表示業者の認証取得が必要です。



## 年会費納入のお願い

今年度も4分の3期が終了し残すところ約3カ月となりました。年会費をまだ納入いただいていない会員様には、できるだけ早めにご入金いただきたく、お願い申し上げます。うち銀行をご利用の方は同封の振込用紙をご利用ください。その他の口座は以下の通りです。

当協会のさまざまな活動は、会員のみなさまの会費によりまかなわれております。引き続き、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

金融機関名	預金の種類	口座番号	口座名義
鹿児島銀行 真砂支店	普通預金	555055	特定非営利活動法人 鹿児島県有機農業協会
鹿児島みらい農業協同組合 郡元支店	普通預金	0069089	鹿児島県有機農業協会